土質ボーリング柱状図（標準貫入試験）

調　　査　　名　一級河川　江の川水系　下領家右下谷通常砂防工事に伴う測量設計業務委託(地質調査)

事業名 または 工事名

調査目的及び調査対象　砂防 砂防

ボーリング名	Bor.No.1	**調査位置**	広島県庄原市総領町下領家　地内			**北緯**	34° 47′ 12.4527″
発注機関	広島県北部建設事務所　庄原支所			**調査期間**	2019年　2月　1日 ～ 2019年　2月　1日	**東経**	133° 04′ 23.2308″
調査業者名		**主任技師**		**現場代理人**		**コア鑑定者**		**ボーリング責任者**	
孔口標高	T.P. 339.10m	**角度**	180° 上下 90° 0° 0°	**方位**	北 0° 東 90° 南 180° 西 270°	**地盤勾配**	水平0° 鉛直 90° 39°	**使用機種**	**試錐機**	東邦地下工機　D1-C
総削孔長	5.00m								**エンジン**	ヤンマー　NFD-12	**ポンプ**	東邦地下工機　BG3-C

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	現場土質名（模様）	現場土質名	地盤材料の工学的分類	色調	相対密度	相対稠度	地質時代名	記事	孔内水位／測定月日
1	337.65	1.45		礫混じり砂		暗褐～黄褐	rd3		新生代第四紀	崖錐堆積物に該当。0.4mまでは少し有機質な中間土が優勢する。礫分はφ5～15mmを主体に，最大径は4cmに達す。砂分は中粗砂を主体とする。	
2				風化安山岩		暗灰～黄灰			中生代白亜紀	割れ目が密に発達し，割れ目に沿って強く風化した岩盤である。コアは角礫状～岩片状が優勢し，割れ目沿いは弱く固結した砂状を呈す。岩片は新鮮色を呈し，硬い所が多い。ただし，割れ目沿いの土砂化により，岩盤としての一体感には欠ける。次の区間は劣化程度が特に強い。・1.55～1.75m間，2.10～2.25m間，3.95～4.43m間，4.62～4.80m間，5.00～(5.17)m間。高角度の割れ目が多いため、貫入試験は岩の見掛け以上に受け付けている。総合評価としてはDH級岩盤であり，部分的にCL級岩盤を介在していると判断される。	
3											
4	334.10	5.00									
5											

標準貫入試験

深度－N値図　0　10　20　30　40　50

N値	深度 (m)	100mmごとの打撃回数 0～100	100～200	200～300	打撃ごとの貫入量	50回の貫入量	自沈時の貫入量
16	1.15	5	5	6	16/300		
	1.45	50/20			50/20	20	
750	2.02						
	3.00	貫入不能			50/0		
	3.00						
63	4.15	16	21	13/40	50/240	240	
	4.39						
88	5.10	24	26/70		50/170	170	
	5.27						

試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験	原位置試験	削孔月日
					2/1